

アクティビティ調査の報告

(1) 調査対象

川西能勢口駅ペDESTロリアンデッキ北側の歩行者



中央タワーを中心に円形になったデッキ



人工芝を敷き立て看板でモルックを案内



当日はモザイクの飲食店のクーポンも配布



知らない人とのプレイで交流する場面も。

(2) 調査方法

軌跡トレース調査（歩行者動線を記録） マッピング調査（滞留者をプロット）

(3) 調査の実施状況

各時間帯（毎時 25～35 分） 10 分間のトレース／毎時 35 分時点の滞留者を記録

(4) 調査日時

令和 2（2020）年 10 月 18 日（日）、19 日（月） いずれも 9：00～20：00

(5) 調査の目的

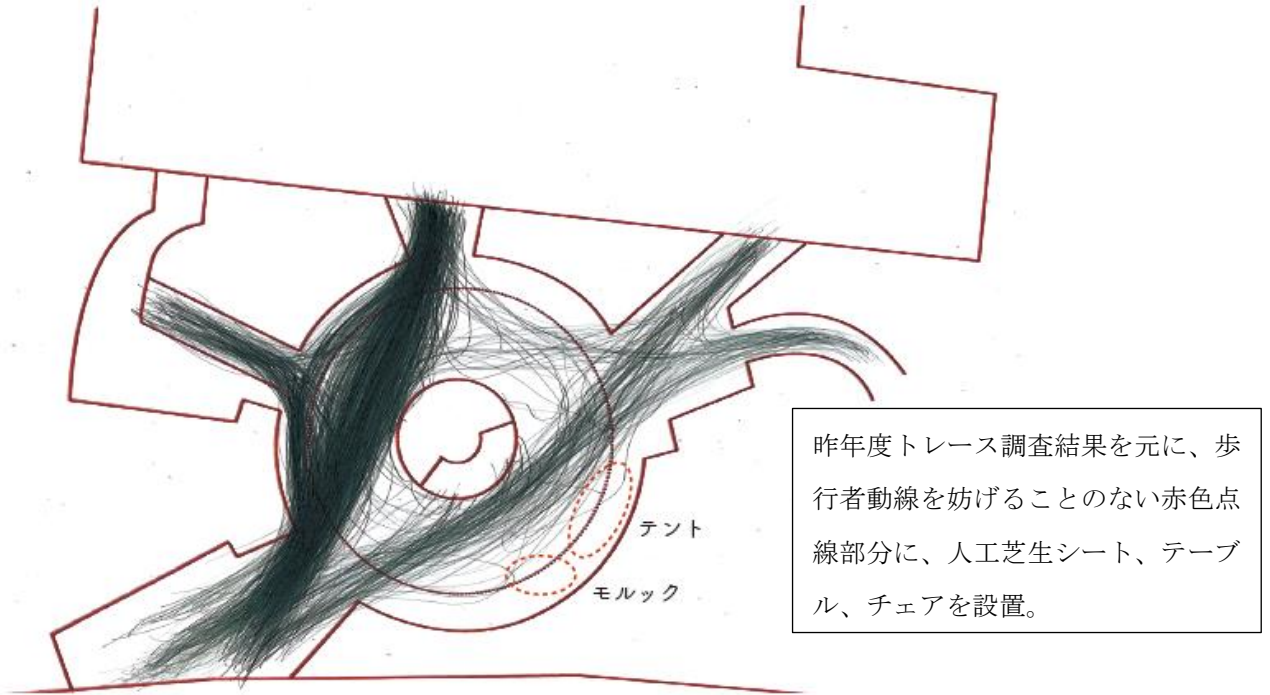
昨年度調査で明らかになった滞留者の少なさを改善するために、人工芝生やテーブル、チェア、アクティビティ（モルック場※）を設置することで、デッキの利用実態がどのように変化するのかを把握し、公共空間活用に向けた前提条件を整理する。

※モルック フィンランド発祥のニュースポーツ。木の棒を並べて木の棒を投げて倒し得点を競うゲームで幅広い年代の人が楽しめるスポーツとして注目を集めている。川西市では満願寺を拠点に盛り上がりを見せている。

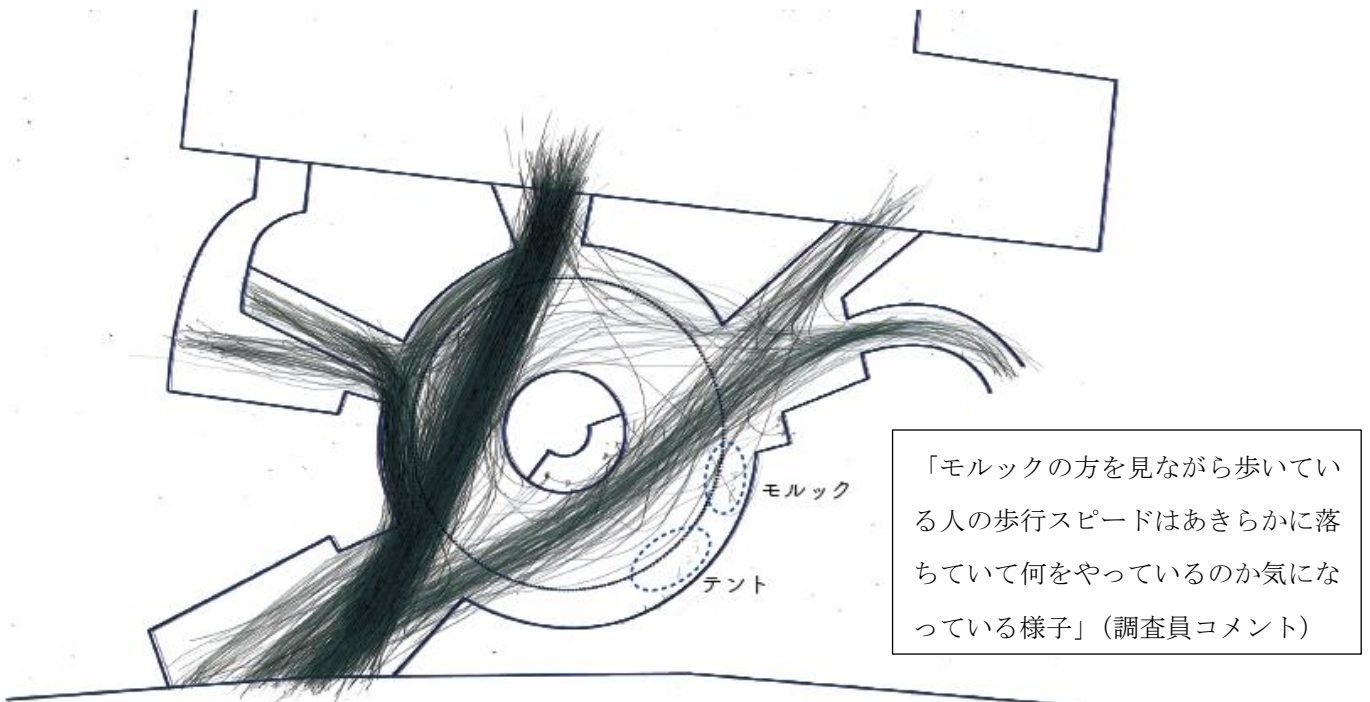
(6) 軌跡トレース調査結果

全時間帯のトレース結果を重ねて図示。休日（左）と平日（右）、時間帯ごと（別添資料）の比較では通行動態に違いを確認することはできなかった。

【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】休日通行者の軌跡



【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】平日通行者の軌跡

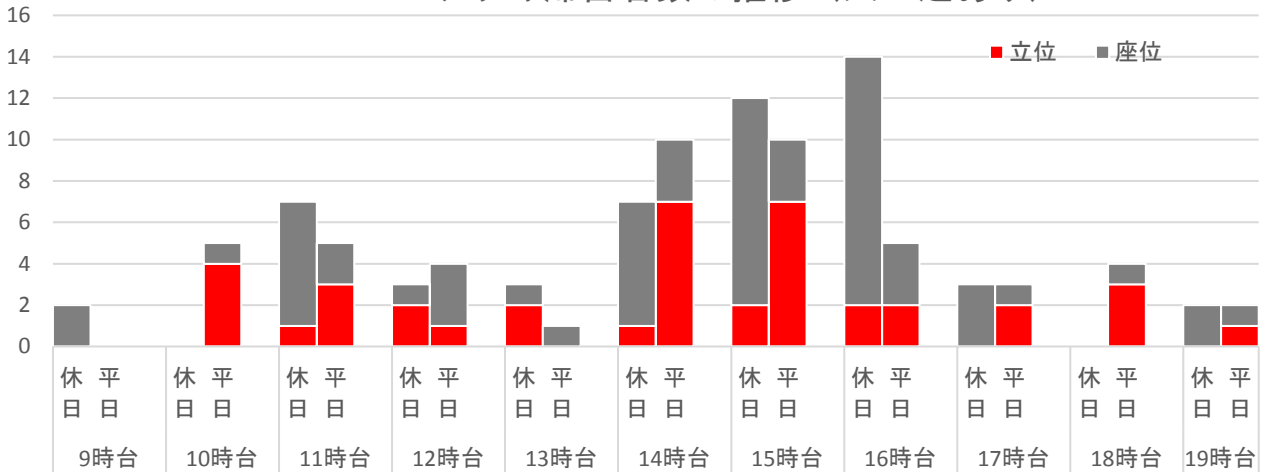


主要動線は、川西能勢口駅とモザイクボックス入り口（西側）を結ぶ屋根のついた最短ルート。中央に設置されたタワーを囲む構造物の北東側と南西側の通行者もほとんど見られなかった。

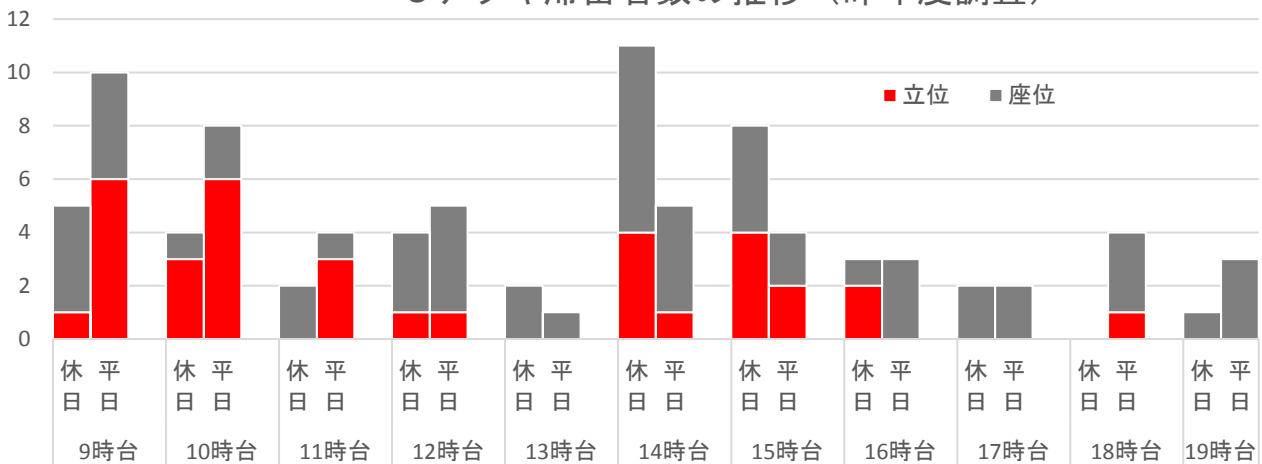
(7) 滞留者数カウント調査の結果

時間帯ごとの滞留者数の推移は以下のとおり、14時～16時台にかけて滞留者が増加しており、休日の16時台で14名と最も多くなっている。昨年度の調査結果と比較すると2割程度滞留者が増えていることがわかる。なお、本カウントではスタッフおよび調査員はカウント対象からは外している。設えと人の気配が通行者に対して「この場所でくつろいでもいい」というメッセージを出していることがわかる。

〇デッキ滞留者数の推移（人工芝あり）



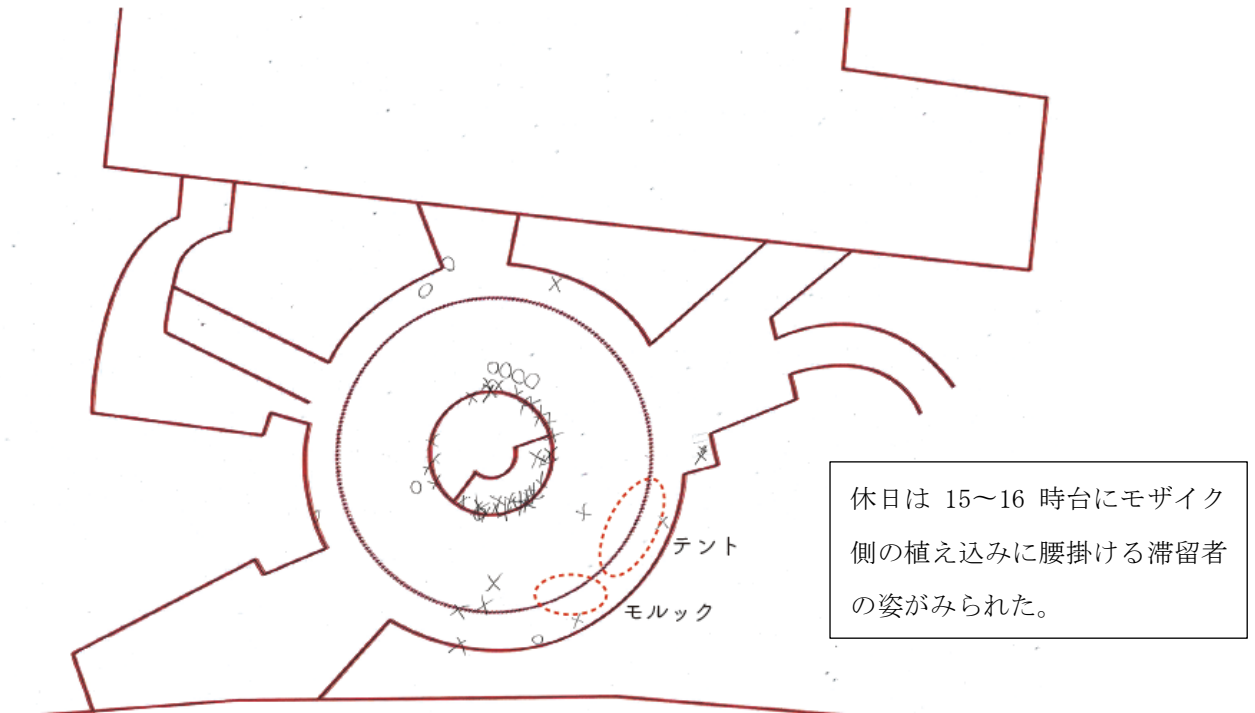
〇デッキ滞留者数の推移（昨年度調査）



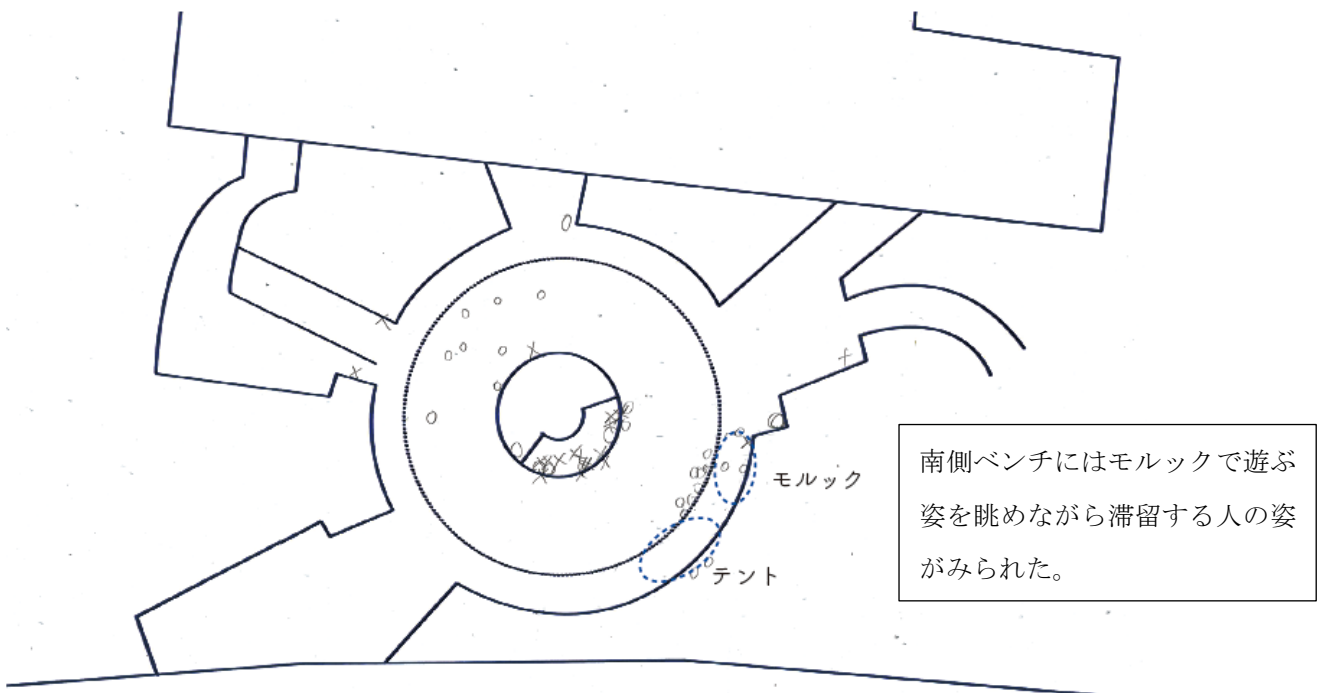
(8) 滞留者マッピング調査の結果

全時間帯のマッピング結果を重ねて図示。

【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】休日滞留者のマッピング



【川西能勢口駅北側デッキ（Oデッキ）】平日滞留者のマッピング



前回調査に比べて、中央のベンチに座る人がモルック場やテーブルの一角を眺めながら、話しかけたり、時に一緒に遊びだすといった交流行動もみられた。これまで通過するだけの空間が日常の小さなハレの場になるためには、デッキ上の設えとアクティビティの仕掛けが有効であることがわかった。

(9) 今後の活用に向けた提言

昨年度の調査結果を踏まえて、歩行者動線を確保しながら滞留機会を生み出すための社会実験を行いながら、昨年度と同様の調査を実施した。これにより、①この規模の道路占用でも歩行者動線は安全に確保されること、②滞留人数が増加すること。さらに測定こそしなかったが調査員の実感として、③既存ベンチの利用度や滞留時間は増加していることが、明らかになった。今回の社会実験がこれらを誘発したものと思われる。

都市における魅力的な空間の構成要素として、「見る-見られる」の関係が挙げられる。本調査ではOデッキの既存のベンチ前に、人々の滞留する仕掛け（モルックというアクティビティ）を用意することで、ベンチから眺める対象物ができ、またモルックのプレイヤーにとってもギャラリーから見られる楽しさを得ることができた。

見知らぬ人と一時的に出会い別れることができることも「匿名性」という都市の魅力といえる。シニア、車椅子利用者、子どもといった知らない人とモルックを楽しむ場面や、少しだけ知っている人と屋外のテーブルでランチをともしる場面など、本調査ではこうした交流シーンをいくつか見ることができた。

こうした調査結果からは、コロナ時代のにぎわいや交流を考えるヒントを多く読み取ることができる。「川西市の顔」ともいえる駅前空間をより魅力的に見せるためには、こうした人々の語りや交わりをどうすれば日常的に生み出すことができるかが重要である。今回の調査も多くの川西市内で活躍する街のプレイヤーの力によるところが大きい。

楽しみながらごきげんに駅前を使いこなすチャレンジを続けながら、Oデッキに必要な設備やファニチャーのあり方を探りながら、道路空間の再編・再整備についても検討していくことが求められている。

Oデッキ上の設備

- ・点字ブロックの配置
- ・電源ボックス
- ・水栓